

世界中小型株式ファンド

<愛称：シャイニング・フューチャー>

追加型投信／内外／株式

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む先進国および新興国の中小型株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年11月27日～2019年11月25日

第3期	決算日：2019年11月25日	
第3期末 (2019年11月25日)	基準価額	10,690円
	純資産総額	18,432百万円
第3期	騰落率	5.5%
	分配金合計	0円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

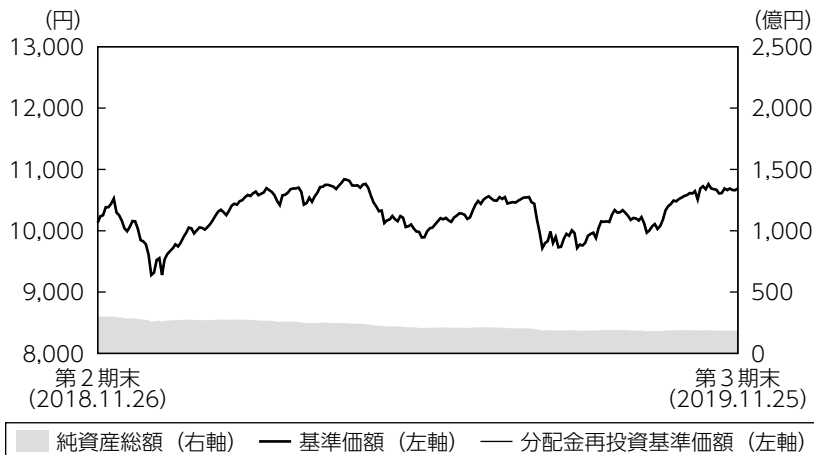
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第3期首：10,132円
 第3期末：10,690円
 (既払分配金0円)
 騰落率：5.5%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

景気拡大のペースが鈍化するとの見方が強まる中、F R B (米連邦準備理事会) の金融政策のスタンスが引き締めから緩和に転換したことが株式市場に大きくプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。米中間の貿易摩擦に関しては、度重なる関税引き上げの発表による貿易への悪影響が懸念され、大きな下落要因となりましたが、妥協点を見出す折衝が継続したことは市場の下支え要因となりました。

1万口当たりの費用明細

項目	第3期		項目の概要
	(2018年11月27日 ～2019年11月25日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	163円	1.582%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,288円です。
(投信会社)	(81)	(0.783)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(78)	(0.756)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(4)	(0.043)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	12	0.113	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	(11)	(0.108)	
(新株予約権証券)	(0)	(0.000)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.001)	
(投資証券)	(0)	(0.004)	
(c) 有価証券取引税	12	0.112	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(11)	(0.109)	
(新株予約権証券)	(0)	(0.000)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.001)	
(投資証券)	(0)	(0.002)	
(d) その他費用	8	0.082	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(8)	(0.075)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.004)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	194	1.889	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

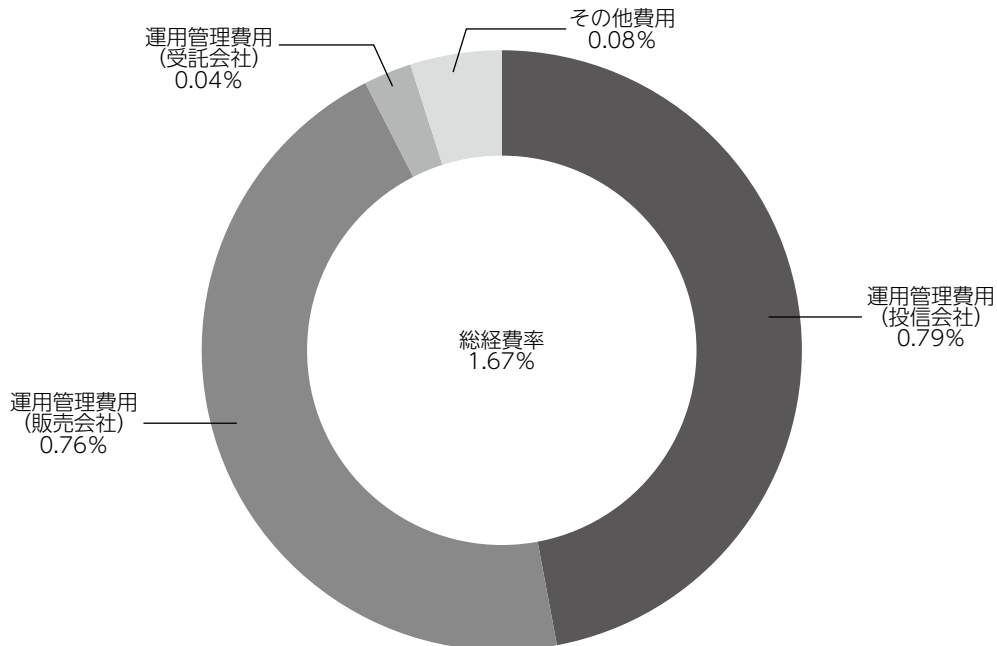
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.67%です。



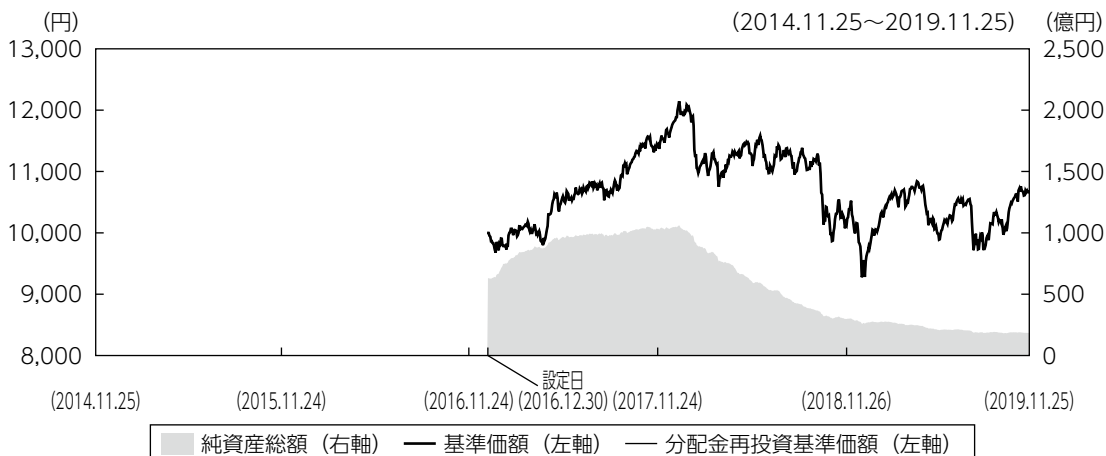
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 基準価額は、設定日前日を10,000として計算しています。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、設定日前日を10,000として指数化しています。

	2016年12月30日 設定日	2017年11月24日 決算日	2018年11月26日 決算日	2019年11月25日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,000	11,419	10,132	10,690
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	14.2	△11.3	5.5
純資産総額 (百万円)	63,027	103,182	29,739	18,432

- (注1) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。
- (注2) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を定めておりません。

投資環境

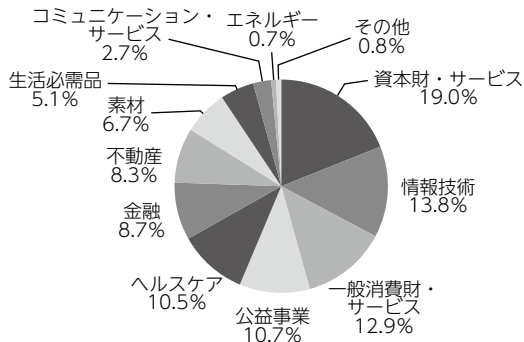
世界の株式市場では、金利の大幅な低下が追い風となり、特に情報技術やヘルスケアといった業種を中心に、成長性の高い銘柄を買い進む動きが加速しました。一方で、景況感が後退した中、割安株は、景気敏感関連セクターを中心に相対的には劣後する動きが継続しました。先行きのリスクに対して敏感な姿勢が持続した中、ボラティリティの低い銘柄は底堅く推移しました。

為替市場は、米ドルは、米国の景気が他の地域と比べて安定していた中、比較的底堅く推移しました。円は、投資家のリスク回避的な姿勢が根強かった中、底堅い値動きを見せました。ユーロは、景況感の後退に加え、政治の不確定要因が懸念材料となり、期を通じて軟調な展開となりました。新興国通貨は、貿易摩擦の影響が懸念材料となり軟調でしたが、期末にかけては買い戻されました。

ポートフォリオについて

成長性が高いと考えられる世界の中小型株式への投資を積極的に行いました。運用戦略としては、定量モデルを活用し、株価変動が小さい銘柄群の中から、割安で成長期待の大きいと考えられる銘柄を抽出し、組入れを行いました。地域・国では、欧州・インドの組入比率を引き上げ、北米・韓国の組入比率を引き下げました。セクターでは、資本財・サービスの組入比率を引き上げ、一般消費財・サービスの組入比率を引き下げました。

○業種別組入比率



(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 業種は決算日時点でのGICS（世界産業分類基準）によるものです。

(注3) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2018年11月27日 ～2019年11月25日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－％
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	1,652円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

2020年の世界経済は、先進国や中国の成長率は緩やかに減速するものの、インド・南米を中心に新興国の成長率は拡大するものと見られ、全体的に増益基調を維持するものと予想しています。貿易摩擦の影響を見据え、市場が慎重な投資姿勢を維持することを想定し、ポートフォリオのリスクを抑制しつつ、財務分析を活用し、中小型市場の中から魅力度の高い銘柄を抽出し、積極的な投資を図っていく方針です。

お知らせ

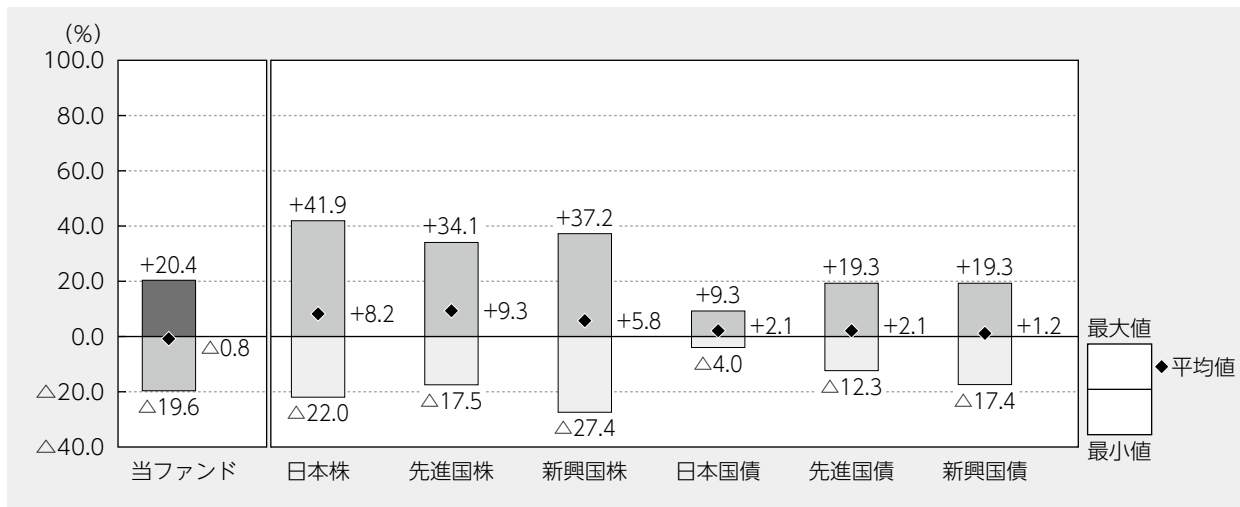
■Asset Management One International Ltd.の株式リサーチ機能がAsset Management One USA Inc.に移管されたため、約款に所要の変更を行いました。

(2019年6月26日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2016年12月30日から2026年11月24日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	日本を含む先進国および新興国の中小型株式*を主要投資対象とします。 ※DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。
運用方法	主として、日本を含む先進国および新興国の中小型株式に投資します。 ポートフォリオの構築にあたっては、株価変動が小さい銘柄群の中から、割安で成長期待が大きいと考えられる銘柄を中心に、投資魅力度の高い銘柄を選定します。 株式（DR等を含みます）の組入比率は、原則として高位を維持します。 組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 銘柄選定にあたっては、アセットマネジメントOne U.S.A.・インク、アセットマネジメントOne シンガポール・プライベート・リミテッド、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社の投資助言を活用します。
分配方針	決算日（原則として11月24日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



当ファンド : 2017年12月～2019年10月

代表的な資産クラス : 2014年11月～2019年10月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPMorgan Global-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年11月25日現在）

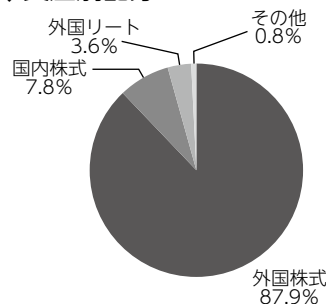
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
EXPEDITORS INTERNATIONAL	アメリカ・ドル	1.5%
バンダイナムコホールディングス	日本・円	1.3
ANSYS INC	アメリカ・ドル	1.2
WHEELOCK & CO LTD	香港・ドル	1.2
ARCONIC INC	アメリカ・ドル	1.2
AIR LEASE CORP	アメリカ・ドル	1.2
CADENCE DESIGN SYS INC	アメリカ・ドル	1.1
CHINA CONCH VENTURE HOLDINGS LTD	香港・ドル	1.1
STRAUMANN HOLDING AG	スイス・フラン	1.1
EPAM SYSTEMS INC	アメリカ・ドル	1.1
組入銘柄数	405銘柄	

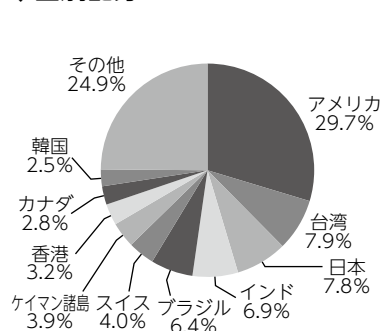
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

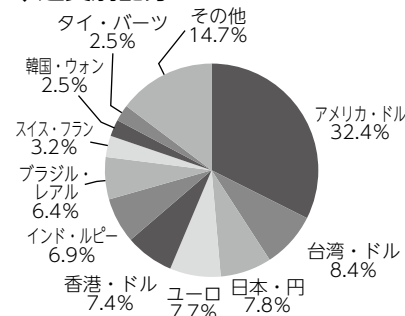
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注3) 国別配分は発行国（地域）を表示しています。

(注4) 国別配分・通貨別配分については上位11位以下をその他に含めて集計しています。

純資産等

項目	当期末
	2019年11月25日
純資産総額	18,432,305,259円
受益権総口数	17,242,193,022口
1万口当たり基準価額	10,690円

(注) 当期中における追加設定元本額は76,985,726円、同解約元本額は12,186,101,826円です。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

